

高校生に求められる主体的な学びについて（第 1 回検討委員会の論点整理）

1 探究型学習の推進

- 探究型の学習を推進する時に、県が求める探究レベルをどこに設定するかが難しい。本質を理解した上で、自分で研究の課題を設定し、実験に取り組みせるといふところまで求めるならば、それを指導する高校の教員の指導力を向上させる必要がある。
- 理数科に特化した取組みの場合、理数科と英語の教員だけが非常に負担が大きくなることが想定される。文系でも探究的な学びを進めることは重要であるので、文理を問わず課題研究に取り組むという形で提案することが必要ではないか。
- 研究活動に参加している生徒は、自分に取り組んでいる研究についての最先端の研究成果を知るために、主体的にツールとしての英語を学ぶというように、普段の学習に対する意識が変わる。自分で気付いてステップアップしていく力を養っていかねなければならない。
- 意識改革も含め、指導法や評価方法などに関する教員研修が必要である。生徒の中には、言語活動が非常に苦手な生徒もいるため、各高校の実態に応じて、課題探究学習の在り方を研究する必要がある。
- 中高・高大の連携、高校間の交流について課題がある。中学校で身に付けた力を高校で伸ばすことができるように、中高の連携、特に情報の共有が必要である。
- 探究型学習を推進するためには、学習センターとしての図書館の役割が重要であり、更に ICT（情報通信技術）などの教育環境の充実が必要である。

2 アクティブ・ラーニングの推進

- 教室には、様々な生徒がおり、グループ学習をしても他の人とつながれない子どももいるが、全体的に見れば、グループ学習の中で協働的に課題解決の場面を作ること、社会を生き抜く力が付くのではないか。
- 主体的な学びや協働的な学びを取り入れた授業を作るためには教員の力量が必要である。「教材を深く研究して授業に生かす力」と「一人一人の生徒をよく見てその生徒に対応していく力」を教師が持たなければならない。そのためには教員の研修が重要である。
- 教員が板書したことを生徒は一生懸命写すといった受動的な授業では、思考には結びつかない。
- 高校では教えなければならない内容が多く、1年間で履修するためにはグループ学習などを取り入れた授業はできないという話を聞いたことがあるが、高校でも授業を変えていかねなければならない時代になっている。

3 地域とのつながり

- 人口減少問題やグローバル化への対応が大きな課題になっている。地域の課題と絡めて国際的な課題に取り組む高校も増えており、グローバル社会のリーダー育成とともに、地域に根差した課題探究学習を行うことにより、地元大学に進学して研究を深め、将来山形の未来をひらく人材に育つような取組みも必要である。

- 他県の大学に進学した生徒が地元に戻ってきて活躍できる場を作らなければならない。世界に羽ばたく人材、日本をリードする人材の他にも、地元に戻ってきて起業する人材などを育てようというのもスーパーサイエンスハイスクールの目的の一つにあるのではないか。

4 探究科等新学科の設置

- 探究科の設置は、知識と技能を持っている者にその活用を与えることになるのではないかと大いに期待している。県は積極的に進めて欲しい。
- 探究科の設置等について、他県の成功事例を参考にしつつ、さきがけて様々なことにトライしていくことはとても大切である。
- 探究科を設置し、探究型の学習を進めていくことにより、学びに対する意識の変革が期待できる。

5 グローバル化への対応

- 海外を視野に事業を展開していくためには、多様な考えを持つ人々と協働していかなければならない。そのために、どのような教育が必要なのかについても考える必要がある。
- 英語でコミュニケーションがとれるだけでなく、日本に対する誇りと自信を持ち、歴史・文化などについてももしっかり理解することが大切である。

6 科学教育の推進

- 科学の甲子園や科学の甲子園ジュニアのような科学コンテストへの参加を通して、高校生、中学生がグループワークに取り組み、問題を解決していくことは生徒にとっては満足度が高く、また実際に意見交換し協働していくという点では効果がある。
- 科学コンテストへの参加等の取組みをうまく使いながら、課題解決、課題探究のレベルを県としてどのように設定していくのかを検討した方がよい。

7 高大接続改革への対応

- 1点刻みの合否判断のしくみが崩れることで、むしろ本当に中学校、高校を通して、様々な課題に一生懸命取り組んできた生徒を大学が迎え入れる体制が出来てくるのではないか。
- アカデミックスキルといった探究方法そのものの訓練、クリティカルシンキングといった論理的な力を増すための訓練、公民、倫理、道徳活動といったシチズンシップの意識を高めていくことなどについて検討が必要である。
- 改革の方向性に沿って探究力を伸ばすカリキュラムを組むことは十分可能である。
- 文系の生徒でも科学技術について理解し、理系の生徒でも科学技術が社会に及ぼす影響について理解し、それぞれが自分の強みを生かして議論をするといった場を整える必要がある。
- 文理融合型の授業があってもいいのではないか。また、それを英語で行うことも可能ではないか。